

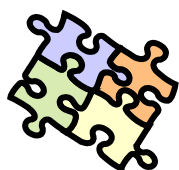
はもりあ

「はもりあ」とは造語で、女性と男性の協働という素敵な“ハーモニー”が奏でられる“中核エリア”という意味です。

2006年10月に公募で決定した男女共同参画センターの愛称です。

2010年4月1日発行

先月は、初めての試みで1ヶ月間という長期間にわたり、“はもりあ月間”を開催しました。市民企業のワークショップ、チャレンジショップ等に、多くの市民のみなさんに参加していただきました。ありがとうございました。男女共同参画社会の実現に向けて、今年度もたくさんの企画をしていきますので、どうぞよろしくお願いいたします！



『パパを楽しもう！ 育児は期間限定のプロジェクト エックス』 安藤哲也さんの講演会を開催しました！

3月2日から開催しました「はもりあ月間」も27日にエンディングを迎えました。

エンディング企画として、NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事の安藤哲也さんをお招きし、講演会「パパを楽しもう！ 育児は期間限定のプロジェクトX」を開催しましたので報告します。

【子どもが産まれたら、OS(オペレーション・システム)を入れ替えよう！】

各国男性の1日の育児時間を比較すると、イギリスは平均1時間以上、北欧諸国は平均2時間以上なのに対し、日本の男性は平均30分。このように日本の男性が育児に主体的に関わる割合は、まだまだ低いです。

この原因の一つに、「家事・育児は女性の仕事」といった古い性別役割分業の意識があります。ファザーリング・ジャパン(FJ)では、「子どもが産まれたら、自分の中のOSを入れ替えよう=古い価値観を捨てて、新しい価値観を持とう」と提案されています。子育ては、たくさんのスキルが必要であり、古い価値観ではすぐに行き詰ってしまいます。つまり、独身のときと同じ行動・考え方をしているのはだめだということです。

【男性の育児は“質”より“量”】

安藤さんは、3人のお子さんのオムツ交換を何千枚と経験しています。「いいとこ取りの育児をやめて量をこなしてスキルアップし、効率よく育児ができるようになろう。そして女性も、自分とやり方が違うからと、できない男性をけなすのではなく、愛情を持って男性を“できるオトコ”に育てよう」とのお話がありました。女性も最初から育児が出来るわけではありません。量をこなして慣れていっているのですから。

【父親が育児に関わるメリット】

父親が子育てに関わると、子どもの成長に対する愛着が高まったり、夫婦関係(パートナーシップ)が強まったり、家事能力が磨かれて父親自身の自活力がつきます。また、子育てを通じた地域社会とのつながりも出来て、仕事では得られない達成感を持つことができます。

安藤さんから、父親に必要なパパ力として「パパ友をつくる」ことを提案されました。パパも1人で頑張るのは難しいです。仲間がいると大きな力となり、「仕事と子育ての両立はどうしたらできるか」「子どものしつけはどうしたらいいか」等々、子育てしているからこそその悩みを男同士で相談できたりもするからです。



＜講演会の様子＞

四日市市は、父親の子育てを支える環境づくりを進め、「笑っている父親」を増やし、四日市市発で、「父親が変われば、社会が変わる」を目指していきたいと思います。

はもりあ四日市は、夜間開館事業を NPO 法人四日市男女共同参画研究所に委託しています。

21 年度は夜間開館業務に加え、男女共同参画推進講座を開催していただきました。

21 年度最終回として 3 月 20 日に開催した、韓国映画「外泊」上映会について報告します。

この映画は、2007 年 7 月の「非正規職保護法」施行直前に、ソウルにある巨大マーケットで起きた非正規の女性レジ係の全員解雇をきっかけに、女性たちがスーパーマーケットを占拠して抗議活動を行う姿をリアルに描いたドキュメンタリー作品です。タイトルは、女性の一人が、抗議活動を「結婚後はじめての外泊」と表現したことからついたそうです。

映像には、労働運動の経験もない女性たちが闘いのイロハを学んでいく姿、少額のカード決済ができない男性社員に“レジは誰にでも出来る仕事じゃなかったのか”とからかう姿、抗議活動をしている妻に「早く家事をしてくれ」「子どもの面倒をみる」という夫の姿、(泊り込みでの抗議活動中は)「“フロ”、“メシ”という人がいない」と笑う女性の姿などがありました。

この映画には、韓国でも、家事・育児は女性の仕事といった性別による固定的な役割分担が存在していること、非正規は立場が弱いことなど多くのことが描かれています。

普通に働いて、普通に暮らすことを望む女性たちの抗議活動を収めたこのドキュメンタリーを見た方々からは、「女性の持つパワーに驚かされた」「この強さと明るさは自分にもあるはずと元気をもらった」との感想がありました。



<上映中の様子>

3 月 27 日に『子育て中の男女がいきいきと働き続けられる企業』

を表彰しました！

四日市市では、「安心して子どもを産み、育てられるまち」の実現を目指して、市内企業に対する表彰制度を始めました。第 1 回目となる 21 年度は、**旭電気株式会社**を表彰しました。今後とも市内企業の先駆者として、さらなる取組を進めて、子育て中の男女がいきいきと働き続けられる環境づくりを行っていただきたいと思えます。旭電気株式会社の取組を一部紹介いたします。

【みえ次世代育成応援ネットワークに参加】

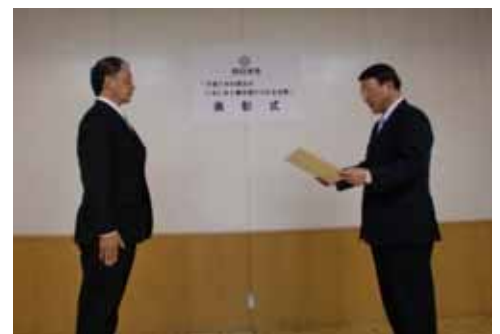
社長自らが「子育て応援！わくわくフェスタ」の企画・運営の長であり、会社ぐるみでネットワークに参画し、運営の中心的な役割を果たすなど、子育て環境の充実、啓発に取り組んでいる。

【より働きやすい環境を目指して】

有給休暇や育児休暇などの取得を積極的に推進するとともに、子育てや介護に携わっている社員の意見を取り入れて柔軟な働き方を提案するなど、社員が働きやすい環境づくりに 10 年以上前から取り組んでいる。

【女性の登用、女性の能力活用に積極的】

結婚、出産などで退職した従業員の再雇用（本人の希望と能力に応じてパートまたは正社員）を積極的に進めている。また、男性と遜色なく同じ職場で働けるよう、女性向けの技能アップ研修を実施している。



<表彰式の様子>

子どもが成長し巣立ってしまっ、巣（家）が空っぽになってしまったことに寂しさを感じることを「空の巣症候群」といいます。子どもの独立等をきっかけに心の中にポツカリと穴があいたようになり、うつ状態になることがあります。身体的にも不眠・食欲不振・イライラ・頭が重い・肩こりなどの症状をとまうことが多いのです。

この「空の巣症候群」は、女性に対して他者のケアという役割を強く求める『男性優位社会』と深く結びついています。「良き妻」「良き母親」であるために、自分のしたいことを犠牲にして、常に夫や子どもを優先するようになります。役割に縛られ過ぎると、子どもたちが巣立って、自分の役割が小さくなった時に、取り残されていく気分になり、自分の心のバランスが取れなくなってしまいます。

「自分を大切にすること」は「わがまま」ではありません。何か打ち込めるものや、夢中になれる趣味などをもち、毎日楽しく有意義に送れるようにすることが有効です。これまで常に他の人を優先してきた場合は、自分が何をやりたいのか、なかなかピンとこないでしょう。相談をしながら、少しずつ、いろいろなことに挑戦してみましょう。

「はもりあ」では、女性のための講座を開いています。また「はもりあ」の登録グループは、さまざまな活動をしています。ぜひ一度お越しください。そしてあなたらしい人生と一緒に考えていきましょう。

はもりあ 電話相談 (☎ 354 - 8335) 火~土 9:00~12:00

13:00~16:00



今月のおすすめ本

3月27日の「絵本ライブ」で安藤哲也さんに読んでいただいた本の中から2冊ご紹介いたします。この2冊は、「はもりあ」で貸出できます。



「うんちっち」

むかしむかしあるところに、うさぎのこがいました。うさぎのこは ことばを たった ひとつしか いえませんでした。それは...! 「うんちっち」誰が何を聞いても「うんちっち」。

本のタイトルにもなっている、この「うんちっち」という言葉。子どもに外で連呼されたら困るからとつい敬遠しがちなタイトルの絵本ですが、とっても面白い本です。安藤さんは、子どもたちに「まねしないでね!」と言っていました。



「わゴムはどのくらいのびるかしら?」

ある日、ぼうやは、わゴムがどのくらいのびるか、ためしてみることにしました。わゴムは、どんどんのびて、ぼうやは部屋から外へ、バスで、車で、飛行機で、ロケットで宇宙まで。どこまでいけちゃうの? わゴム切れないかな? と、ワクワク感・ドキドキ感いっぱいの絵本です。一度読んでみてください。

今月のキーワード

女性の参画加速プログラム

日本では、女性の意思決定過程への参画が遅れており、国際的にみても低水準であるため、平成20年4月に、内閣の男女共同参画推進本部において「女性の参画加速プログラム」が決定されました。

この参画加速プログラムは、ワーク・ライフ・バランスの実現、女性の能力開発・能力発揮に対する支援の充実、意識の改革の3つを施策の基本的方向としており、具体的には、あらゆる分野における女性の参画加速のため各界トップ層への働きかけや女性のネットワーク構築の支援などの基盤整備、活躍が期待されながら女性の参画が進んでいない分野に焦点を当てた戦略的な取組、の2点を平成22年度末までに各方面と協働して戦略的に実施することになっています。

活躍が期待されながら女性の参画が進んでいない分野としては、医師、研究者、公務員の3分野をあげています。特に国家公務員については、平成22年度末までに、管理職に占める女性の割合(2%。平成20年1月現在)を少なくとも5%程度とすることを目指しています。



登録グループイベント情報

- 4月16日(金) 「高村光太郎*萩原朔太郎を読む」*理想主義*近代人の孤独・憂愁
『道程』『智恵子抄』『青猫』『純情小曲集』他を読みます。予約は不要です。当日お越しください。
時 13:30~15:30 費 500円(資料代) 所 はもりあ四日市 会議室
問 よっかいち朗読文学の会 雨澤 (TEL&FAX337-1873)
- 4月20日(火) 命の声を聴く『自己尊重トレーニング』
子育て中のお母さんが、リフレッシュし、自分を高める催しです。自分を愛し、人を愛するために自己尊重感を高めましょう。動きやすい服装(ズボン)で、バスタオルをお持ち下さい。
時 10:30~12:30 費 500円(会員300円) 所 四日市まんなか子ども劇場 定 8名
他 託児あります(有料) 問・申 四日市まんなか子ども劇場 (TEL&FAX351-6670)
- 4月24日(土) ~子どもに愛が伝わっていますか~ 住まいが家族を育てる 親と子のかけ橋づくり
楽しい子育て・楽しい家庭生活をするために、家族のコミュニケーションについて今一度、一緒に考えてみませんか。
時 13:30~16:30 費 無料 所 本町プラザ5階 第三会議室 定 45名
問・申 NPO 法人幸せな家庭環境をつくる会 (TEL345-7726 FAX345-0745)

登録グループ紹介

はもりあ四日市に登録されているグループさんを紹介していきます。

今回は、NPO 幸せな家庭環境をつくる会さんです。

NPO 幸せな家庭環境をつくる会

三重支部代表 中村 公一 会員数 45名
連絡先 059-345-7726

私たちは住まいを家庭環境づくりと考え、住まいと自然環境との関わり方を重視しています。幼児期(0~6才)を過ごす住まいの環境は、子どもの性格や人格に大きな影響を与えると昔から言われています。

私たちはその大切な住宅環境で、家族と幸せな家庭生活を永続できるよう考える会で、地域社会に役立てるよう活動しています。



情報紙「はもりあ」をご購読の皆様へ

いつも情報紙「はもりあ」をご覧いただき、ありがとうございます。この「はもりあ」は、事業終了後のアンケート等で情報提供を希望された皆様にお送りしています。送付が不要になりました場合はご連絡ください。



四日市市男女共同参画センター (はもりあ四日市)

〒510-0093 四日市市本町 9-8 本町プラザ 3F

TEL.059-354-8331 FAX.059-354-8339

●開館時間 AM9:00~PM9:00

●休館日 日曜日、月曜日、祝日、年末年始

Eメール kyoudousankaku@city.yokkaichi.mie.jp

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/danjo/index.shtml>